

《生涯学習計画》（平成25年度～平成32年度）

【東村山市生涯学習計画実施状況】（平成25年度～平成31年度 まとめ）

基本目標1（学校・家庭・地域における生涯学習の展開と支援）

- 目標
- 1（家庭・乳児への教育支援）
 - 2（自立に向けた学習基盤の育成）
 - 3（子ども・若者への教育支援）

成果

・平成29年度に子育て情報誌「なないろぼけっと」改訂版を作成するため、およそ半年の間保護者と協働して、4,650部を発行した。保育付きの実施であり、安心して子育てから一時離れる事により、各々が持っている力を十分に発揮できた。（P34①～③）

・市内の子育て関連施設27か所に「おすすめ絵本パック」を設置し、おひさま広場、子育てひろば等41か所に「乳幼児への読み聞かせボランティア」を派遣した。また、平成27年度には乳幼児保護者向けの講演会を2回実施した。（P34④）

・学習状況調査の結果を基に基礎学力向上推進委員会で東村山市版算数及び数学基礎ドリル、小学校国語基礎ドリルを作成し、各学校で基礎学力の定着を図った。（P36①～③）

・情報教育推進委員会で、インターネット等による犯罪やトラブルを防止するため、「SNS 東京ノート」の活用及びサイバー犯罪に関する研修を行い、児童・生徒及び保護者への意識啓発を図ることができた。タブレット型端末を使用した英語学習ソフトの活用やプログラミング教育の研修を通し、ICT機器の活用について推進を図ることができた。（P37ページ①～③）

課題

・子育て総合支援センター「ころころの森」と同様に利用者支援事業「ころころたまご」と各子育て支援施設及び関係機関との横断的な連携を構築し、子育て相談事業の一層の充実に努めたい。（P34①～③）

・「おすすめ絵本パック」設置施設との連絡を密にし、施設での絵本の活用を一層図ることが必要であり、また、ボランティアの活動が円滑に行われるように、継続して支援していく必要がある。（P34④）

・「さくらんぼの会」において、アウトリーチ型の積極的な支援と、それにあたる人材の確保が必要である。(P 3 5)

・希望学級において、利用者の増加にともない、教室等の学習環境の整備・拡充など、多様な状態にある児童・生徒への支援を関係機関との横断的な連携をしながら、対応する必要がある。(P 3 8①②)

・言語指導ボランティアは、定期的なボランティアではないため、活動できるボランティアの人の継続的な維持や確保を行うことやボランティア初心者へのフォローを行い、スキルアップを促すことが必要であり、関係所管と連携を深めながら、保護者、学校に対する事業・取組等の定期的・継続的なタイムリーな情報提供や情報周知を行い、情報の定着化を図る必要がある。(P 3 8③)

・図書館は、子どもの居場所として充実できるよう館内でのスペースの確保や配置などの改善策を検討し計画的に取り組む必要がある。(P 3 9①)

・学校外活動においての事業内容がマンネリ化しないように、常に新しい情報を入手し、時代に合った手法を取り入れるよう協議・検討が必要である。(P 3 9①③)

集約

学校・家庭・地域における連携にかかわる生涯学習の施策は、学校教育が受け持つ部分とは異なり、その独自の役割と領域に調整が求められる。これは切れ目のない子育て支援との関連で、0歳からの家庭支援の体制づくりが子育て支援センターなどとの連携が課題となると思う。

総合評価

「学校」「家庭」「地域」といったそれぞれの立場だけでなく、生涯を通じた学習という大きな視点で捉えた展開と支援を行っていくこと。(東村山市生涯学習計画P 2 9より)

→概ね達成出来ている。

(別紙東村山市生涯学習計画評価実施状況に伴う取り組み状況について参照)

基本目標 2（多様な生涯学習の展開と支援）

- 目標
- 1（健康づくりへの支援）
 - 2（ともに生きる社会を築く教育の支援）
 - 3（市民力を高める学習機会の推進）
 - 4（暮らしやすい生活を送るための教育）
 - 5（施設の充実と整備）

成果

- ・各健康増進施設において、運動指導員によるプログラム体験教室を設け、継続利用を促す機会を作った。保健指導は前年度より2回開催数を増やし、計8回実施して良かった。（P 4 2）
- ・「学校給食展」や「親子料理教室」「中学校給食お弁当作り」を通し「食」について考える場を提供できた。（P 4 3 ①～③）
- ・市内小中学校で発達段階に応じた人権学習を行い、全生園のハンセン病資料館見学やハンセン病者の講演会を実施し、本市の教育活動の柱として特色ある人権学習を取り組むことができた。（P 4 4 ①②）
- ・祭囃子、雅楽・浦安の舞といった無形民俗文化財の定期的な公開を実施するほか、伝統文化などの情報発信を継続的に推進し、周年行事を行うことで、伝統文化の継承と郷土愛を育む一役を担うことができた。ひなまつりなどの年中行事展示や郷土食、しめ縄づくりなどの事業を実施することで、次世代への文化や郷土を考える機会を与えたり、興味関心を高めることができた。（P 4 8 ページ①～④）
- ・市内小学校への脱穀、しめ縄づくりなど出前授業を実施し、学校教育における郷土学習に寄与することができた。（P 4 8 ページ①～④）
- ・ヤングライブは、中高生を中心に24団体の参加があり、とても活気があり成功させることができた。また、市民文化祭も参加団体が増加しており、目指すべき方向性において着実な成果をあげている。（P 4 9 ①～③）
- ・地域においてボッチャなどのパラリンピック種目競技や多様なニュースポーツを体験できる場の提供を通じて、地域住民の体力向上及び健康増進を継続的に振興し、地域コミュニティにおける絆の醸成、市民の高いスポーツ実施率を達成することができた。（P 5 0 ①～③）

・中央公民館、地区公民館で利用者懇談会を開催し、利用者の皆さんの意見を聞く機会を増やした。
(P 5 5 ページ①～③)

課題

・道徳授業公開の参加人数に比べ、意見交換会への参加人数が少なく、講師の選定や意見交流の方法を工夫する必要がある。(P 4 4 ①②)

・災害時外国人ボランティアの登録者は増加傾向にあるが、災害時におけるマニュアルの整備が進められていない。災害時には他市との協力も必要になってくるので、連携が取れるような体制構築を考えていかなければならない。P 4 6 ①～④)

・市民が気軽に参加できるような事業の展開と、公民館にあまり関心のない市民への働きかけの工夫も必要である。(P 4 7)

・文化祭において、指導者の高齢による展示部門の減少の問題や後継者の育成、若者の参加を促すような企画など工夫が必要である。(P 4 9 ①～③)

・土曜講座などで講師の高齢化等により、指導者の確保が難しくなりつつある。後継者の育成を急ぐ必要がある。(P 5 6 ①②)

・利用団体の多種多様な要望が増えてきておりコミュニティ代表の負担が大きくなっていることから、代表者をバックアップするような仕組みを検討する必要がある。(P 5 6 ①②)

集約

東村山のすべての市民に向けた生涯学習の計画づくりにおいては、さまざまな市民の立場や生活、人間理解が求められる。乳幼児から高齢者、障がい者、外国籍の人たち、生活に困難をかかえた人たち、総じて社会的不利益な人たちにとっての計画、また、社会的課題を解決するための計画づくりとして、福祉・自治・環境・労働・健康・消費（経済）男女平等などさまざまな分野の計画づくりが求められていて、それら課題を受け止めた展開がなされていて、良いと思うが、まだまだ課題は多く、更なる展開が必要である。

総合評価

東村山市では、様々な生涯学習の事業を展開していった。子どもには楽しみながら規範意識や人間形成の基礎を培える学校外活動を企画・実施し、高齢者には地域のなかでの居場所や仲間づくりを助けるような支援をしたこと。また、市民のこころ豊かで充実した生活のために、文化・芸術活動の成果を披露する場づくりや、地域を挙げてのスポーツ振興を推進してきたこと。さらに、東村山市がもつ多くの遺跡・史跡や文化財を通じた学習活動や、国立療養所多磨全生園との関わりに代表される人権教育にも努めてきたこと。これらの多種多様な生涯学習の場と内容は、これまで社会教育行政等が担ってきたが、改めて体系化し直し、新たな展開と支援を行っていくこと。（東村山市生涯学習計画P29より）

→概ね達成出来ている。

(別紙東村山市生涯学習計画評価実施状況に伴う取り組み状況について参照)

基本目標 3（団体・人材の発掘・育成と活用の支援）

- 目標
- 1（地域で活動する団体の育成と活用）
 - 2（地域で活躍できる人材の育成と活用）

成果

・子どもの読書に関わるボランティアにより、充実した活動が行われた。主な活動として、図書館「子どもと本の人材バンク」からの「乳幼児への読み聞かせボランティア」の派遣があり、平成25年から28年の4年間で1310回、延べ3,734人を派遣し、充実した内容となった。

（P 58①）

・地域で活動する多様な団体を紹介する「元気アップマップ」を作成し、全戸配布した。

（P 62①～③）

課題

・ボーイスカウトやガールスカウト、子ども会など社会教育団体の活動内容を把握し、連携したりすることが必要である。（P 58②③）

・将来にわたり地域で様々な青少年健全育成を図れるよう、ホームページや各地区のイベント時に地区委員の募集を呼びかけても、なり手が見つからない。継続して実施する必要がある。

また、今後もリーダー研修の充実を図り、地区委員会の充実を図る。（P 58②③）

・人材バンクの講師登録は進んでいるが、ボランティア活動にしても、人材バンクにしても、地域活動にしても、多くの市民はその活動の実際を知らないのが現状である。広く情報を発信する仕組みが必要である。（P 62①～③）

・人材バンク等のボランティアについては、各所管行っており、横の繋がりについても今後検討する必要がある。（P 64）

集約

大きく変動した今日の社会は、社会教育振興の要である「地域」の活力をいかに高めるかが課題であり、その課題意識が計画づくりに反映する必要がある。それなしには、事業の広がりや深まりは期待できない。この分野では、市民協働課、高齢介護課、市民相談・交流課などとの連携がさらに進む体制づくりが必要で、計画全体の中で、成果と課題において、もっとも次期計画に託す課題が少なくなかった。地域の活性化に、さらなる「社会教育」の推進策を検討すると良いと思う。

総合評価

生涯学習社会を実現していく上で、団体や人材の発掘・育成は欠くことのできないものである。また、それらの団体や人材が地域で活躍することにより、生涯学習がより充実したものとなる。今後は、社会教育等各種団体と人材の発掘・育成と活用について体系化を図り、支援を行っていくこと。（東村山市生涯学習計画P29より）

→達成出来ていない部分もあるものの、概ね達成出来ている。

（別紙東村山市生涯学習計画評価実施状況に伴う取り組み状況について参照）

基本目標 4（生涯学習の基盤整備）

- 目標
- 1（生涯学習推進のネットワークづくり）
 - 2（「知の循環型社会」の構築）

成果

- ・市民講座・自主公演事業などを内容も含め、開催日、開催時間等を市民ニーズに合わせて開催したことにより、参加者が増加している。（P 6 6 ③）
- ・「市民活動よろず交流会」は交流会ニュース既参加者からの口コミによる新規参加もあり、会の趣旨にもあった草の根的な広がりを見せている。（P 6 7 ①～③）

課題

- ・公民館の講座等については、提案者の意見も取り入れるなど、多彩な講座の開催を公民館運営審議会等で検討していく必要がある。（P 6 6 ③）
- ・行政で提供できる市民情報には限界があるため、市民が運営するサイト等での情報提供を検討していく必要がある。個人情報保護法の改正により、これまで以上に情報の取扱に留意しなければならない。（P 6 7 ①～③）

集約

生涯学習推進の基盤は、一つに社会教育施設の充実であり、一つに、団体活動の支援とその広がりにあることからすれば、基盤整備の具体策が探求される場所である。やはり、ここは他部局との関連というより、生涯学習・社会教育行政全体の体制づくりであり、この点で、本格的な基盤整備への期待は高いと思う。

総合評価

市民の生涯学習機会の充実を図るため、その推進の中心的な役割を担う拠点機関の整備や、情報の発信・提供、さらには持続可能な社会実現のための具体的な方策を示し、その体系化を図ること。（東村山市生涯学習計画 P 2 9 より）

→概ね達成出来ている。

（別紙東村山市生涯学習計画評価実施状況に伴う取り組み状況について参照）